ゲンロク 2020年1月号（毎月26日発売）
11月26日発売　No.407　第35巻第1号

Car Entertainment Magazine

GENROQ

［ゲンロク］

2020 JAN No.407 1
定価 998Yen

Lamborghini 2020

絶対ランボルギーニ!

EVO&RWDに見るウラカンの魅力
アヴェンタドールSVJ63ロードスター日本上陸
ウラカンEVOペルフォルマンテ登場

特選ショップ全国版

［BRAND NEW］
フェラーリ・ローマ
新型ポルシェ911ターボ

［SUV新時代］
ロールス・ロイス・カリナン／BMW X7
ジープ・グランドチェロキー トラックホーク

［鈴鹿サーキット・アタック］
日産GT-R NISMO／BMW M5コンペティション
メルセデスAMG GT 63 S 4MATIC+

REPORT◉中三川大地(NAKAMIGAWA Daichi) PHOTO◉山本佳吾(YAMAMOTO Keigo)

Ge3y's Mercedes-AMG G63

玄人好みのコーディネートで 都会派"G"へと彩る

珍しいマグノシトリンブラウン(マットメタリック)をまとう2019年式のAMG G63。個性的なクルマを率先して取り扱うジェミーズがオイチからコーディネートした1台だ。さりげなくハイパーフォージドを合わせている。

Gクラスという存在は、都心界隈では本当によく目にする。昨年、ビッグチェンジを遂げた新型にしたって、もう珍しい存在ではなくなっている。少なくとも「Gクラスに乗ること自体が個性」だった時代はとうの昔に終わった。だからこそ「いかに自分色に染めるか」というカスタムへの欲望が随所に沸き起こり、世界中であらゆるアプローチが試されてきた。

真っ黒なボディに一流ブランドのフルエアロ、というオンロード系ラグジュアリードレスアップはすっかり市民権を得た。タフなオフローダーとしての資質に磨きをかけるアゲ系も頻出している。往年の姿カタチを蘇らせるクラシック系カスタムもある。もちろん、ノーマルのまま使い倒すことだって立派に正義だ。多種多様なアプローチのなかで、今、新鮮な着こなし方は何か。どうやって個性を表現するか。そこに作り手の手腕が問われるようだ。

東京・世田谷に本拠を置き、いつもハイセンスなハイエンド系カスタムカーを提案するジェミーズがプロデュースしたAMG G63を前にして、そんなことを考えていた。この個体、今までありそうでなかったコーディネートを成立させたような個性をたたえていたからだ。

まずはメルセデスが用意するカスタマイズプログラムであるデジーノを駆使して、エクステリアカラーはマットメタリックのマグノシトリンブラウンへ。インテリアも同系統のエクスクルーシブベージュ/ブラウンナッパレザーで統一された。白黒シルバーが不動の人気を誇る日本の潮流を、あっさりと打ち砕くかのようなエレガントなコーディネートだ。クーペやサルーンではなく無骨なスクエアボディを持つGクラスなのに、これが自然と調和している。

その上で足もとだけにワンポイントモディファイを加えている。ハイパーフォージド製HF-DICホイールが装着された。アシンメトリー左右非対称、のシャープなスポークデザインが、いかにも走りを予感させる銘柄だ。とはいってもスポーツカー専用のような走り路線一辺倒ではなく、意外にもGクラスには似合う。シャープなスポークをあえてガンメタで落とし込み、リムをボディカラーと同じブロンズ調にすることで統一感を持たせたことも大きい。スポークの裏地に潜むキャリパーを黄色に変更したことで、さらに抜群の調和を見せる。これが純正の赤キャリパーなら、確かに違和感があるかもしれない。

忘れてはならないのが、そこに組み合わされたタイヤだ。サイズを22インチと適度な塩梅に抑えながら、一見、ハズし技とでもいうべきオフロードタイヤを入れていた。銘柄はニットー製のテラ・グラップラー。同社のオールテレインタイヤでありタフなトレッド面とサイドウォールがGクラスを支える。サイズは前後ともに305/40R22。きっちりとサイドウォールの肉厚感が出てオフローダーっぽさを匂わせる、絶妙なタイヤ選定だと思える。

ボディ側はエレガントなのに、ホイールでオンロード性能を感じさせておいて、タイヤ側ではオフローダーとしての資質を再確認させる。まるで一流のスーツをまとう身体から、わずかに鍛え上げられた筋肉を感じさせるようなコーディネートがいい。

AMG G63の動力性能を過度にひけらかすことなく、むしろラグジュアリー性を高めた仕様としながら、随所にGクラスらしいオンオフ問わない動力性能を感じさせるカスタムを盛り込む。それをチグハグと感じさせないために、カラーリングで統一感を持たせる。こんなアプローチが新鮮で、都会では映える。

このGクラスを見るたびに「Gクラスはかくあるべし」という正解がないところが面白いと再確認する。そんな自由な世界でジェミーズが挑んだアプローチには、我々にとっても参考になる部分が多々潜んでいる。さらにはジェミーズが絶大な信頼を置くというハイパーフォージドの幅の広さを改めて感じさせてくれた。

スーパースポーツ界でおなじみHF-DICはGクラスにも似合う。この個体は前後10.5J×22インチでフロントはセミコンケーブ、リヤはディープコンケーブ。ディスク面はアナダイズド。ガンメタ、アウターリムはボディカラーと同系色のアナダイズド・ブロンズとなる。

PRICE LIST

HYPER FORGED HF-DIC	
19インチ(7.5J～14.0J)	13万6000円～18万9000円
20インチ(7.5J～15.0J)	14万7000円～20万6000円
21インチ(8.5J～14.0J)	17万7000円～24万8000円
22インチ(8.5J×14.0J)	22万4000円～34万9000円

※価格は税別。

取材協力/Ge3y's(ジェミーズ) ☎03-5432-7666 https://www.ge3ys.com
問い合わせ/ハイパーフォージド ☎072-256-6664 http://www.hyperforgedwheels.com/